

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

事業が手段で人間尊重が本体だ 出光佐三 (出光興産創業者、1885年～1981年)

1. 私は人間というものは苦しいものと思っている。苦しみは死ななければならぬ。しかし、その苦勞は無意味なものではない。苦勞すればするほど人間らしくなる。僧侶とか学者とか、現実的でない人は死ぬまで修養している。修養は今の人に言わせれば苦しみである。刹那主義で、今日贅沢をして、うまい物を食べて、いいことをして終わるだけだったら、犬や猫とどこが違うか。
2. 私は商売を始めた。形から見れば、資本家の後を追った形になっている。けれどもそうではない。私は資本家に反対した。資本主義に反対したのではなく、資本家に反対した。資本家に反対した理由は、金さえあれば、何でもかんでもやり、金で人を圧迫したり、金万能のやり方をするからである。
3. 出光は人間が資本だ。事業が手段で、人間尊重が本体だ。この50年を顧みると、出光のスタートのときは、資本主義の黄金万能時代だった。その後、戦争で極度の計画統制時代。それから敗戦の占領政策時代。この極端に変わった三つの時代に対して、私たちの人間中心主義、人間尊重主義ということの一つも変える必要はなかった。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2025年5月10日・17日号)

経営者のための理念・哲学

一隅を照らすとはポストにベストを尽くすこと
宮本祖豊 (比叡山十二年籠山行満行者・観明院住職)

1. 生きていく上では様々な壁に直面します。一瞬一瞬を精一杯勤め上げることが何よりも大切かと思えます。と同時に修行が修行として成り立つ上では、神仏やご先祖様、周りの人たちのサポートが絶対に欠かせません。そういう様々なご縁に対する感謝を決して忘れてはいけません。よりもっと根本的な部分で申し上げれば、自分自身が過去世から積み上げてきた毎日毎日の徳が満行へと繋がっていく。それは人生や会社生活などにおいても全く同じではないでしょうか。
2. 伝教大師は「一隅を照らす」ことの大切さを説いておられますが、常に笑顔でいるとか、電車でお年寄りに席を譲るとか、他人に親切にするとか、ちょっとしたことでいいと思えます。何をやるにも一つひとつを丁寧に誠心誠意やっけていく。自分が置かれた環境で一日一日それを積み重ねていくこと。よき人生はそのことに尽きるように思えます。「一隅を照らす」とは自分のポストにベストを尽くすことです。
(参考:「致知」2025年7月号)

ワンポイントアドバイス

生活者起点の製品戦略
小野真紀子 (サントリー食品インターナショナル社長)

1. 一般的にグローバル企業は、販売数や金額、利益といったデータを見て製品戦略を立てる傾向が強いと思う。しかしサントリーは違う。データだけではなくて、実際にお客様を見て戦略を立てる。お客様が商品を買う場面だけを単に切り取ると、そこにいるのは消費する「消費者」である。でも、私たちはそういう目では見ない。その人がどういう思いで商品を手にとって買ったのか、何を感じながら飲んでいるのか、それによって何を期待するのかというところまで入り込んだ上でビジネスをやろうと考えている。それが私たちが掲げる「生活者起点」の意味だ。
2. 多くのグローバル企業は、本国にマーケティングや開発などの機能を集約している。そして世界共通のブランド・商品を各国でドサッと売る。「ワンウェイ(一方通行)」だ。一方、サントリーでは、本社から一律に指示を出しておらず、マーケティングや開発は各国の現場ごとに委ねている。その上で、ベストプラクティスを全世界で共有するというやり方を取っている。
(参考:「日経ビジネス」2025年4月21日号)

古典に学ぶ

親と子どもの加持世界の成立

1. 親が子どもを思う気持ちは常に消えることなく存在します。ただし、子どものほうで親を無視したり、あるいは親に反抗したりしていたら、その気持ちは一方通行です。
2. しかし、子どもが親の愛情に気づき、「ああ、ありがたいな」という思いが芽生えた時、そこに家庭平和という世界が生まれます。それが、親の愛情(加)と子供の感謝(持)によって成立する加持世界です。
(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)